



森内 浩幸

長崎大学病院 小児科長
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授
長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科 教授
長崎大学高度感染症研究センター長

研究紹介

長崎大学高度感染症研究センターの研究や研究者を紹介するコーナーです。
今回は高度感染症研究センター長の森内浩幸教授です。

皆さん、こんにちは。令和6年4月にセンター長を拝命した森内です。
私は平和祈念像から下りてすぐの所で生まれ育ち、信愛幼稚園、山里小学校、山里中学校、長崎南高校、長崎大学医学部と学生時代を本センターの建つ長崎大学坂本キャンパスの近くの地域で過ごしました。そして、今もおそらくこれから先もずっと、この地域の住民の一人です。

私はかつて米国でエイズを研究していました（直属の上司だったファウチ博士は歴代大統領の首席医療顧問として、エイズやエボラウイルス病、新型コロナウイルス感染症など幾多の感染症対策において



ファウチ博士のオフィスで

中心的役割を果たしました）。留学当時（1990年代）、エイズを研究していると言うと、一緒に食事をする事さえためらう日本人医学研究者がいて、驚いたことがあります。未知のものへ恐れを感じるのは、誰にとっても普通のことなのだと実感しました。

米国時代は感染症専門医のトレーニングを受け、エボラウイルス病の疑いの患者を担当するかもしれないと言われ、宇宙服のような防護服の装着練習をしましたが、どうやらエボラウイルス病ではなかったようで実際に診察するには至りませんでした。エイズ研究者との接触を恐れた知り合いの研究者は、エボラウイルス病を診療する医師などと聞くと絶対に寄り付かなかったと思います。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まった後、日本小児科学会の感染対策担当理事または日本小児感染症学会理事長としての立場から、子どもの代弁者としての発言に心掛けました。このウイルスは子どもにとっては他の風邪のウイルスと大差なく、過度な対応（一斉休校、学校行事の中止、黙食など）は子どもの心の発達と健康に悪影響を与えると訴えました。この時も「正しく恐れる」ことの難しさを実感しました。

エボラウイルス病はアフリカの風土病だと思っている人がほとんどでしょう。しかし1989年米国ではエボラウイルスによるサルの大量死が私の留学先の近くで起こりましたし、2014~2016年西アフリカでの流行は欧米諸国にまで拡大しました。日本には関係ないなどと誰が言えるでしょう。

しかし、このエボラウイルスも、BSL-4施設の中で訓練された人が決められたとおりに扱っていれば